

(様式5)

# 調査報告書

訪問調査日	2008年6月25日
調査実施の時間	開始 10時00分 ~ 終了 15時00分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム あったかハウス日吉 ( 鹿児島県 )
-------------------	-------------------------------

## 外部評価項目構成

	項目数
I. 理念の共有と理解	2
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名 石松 成子
	氏名 浜田 千里
事業所側対応者	職名 管理者・計画作成者・事務長・副施設長
	氏名 藤元潤之輔・川路直子・牧元秀保・大崎慎哉
	ヒアリングを行った職員数 6名

<p><b>※記入方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。</li> <li>●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。</li> </ul> <p><b>※項目番号について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●外部評価項目は30項目です。</li> <li>○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。</li> <li>○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。</li> </ul> <p><b>※用語について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。 (他に「家族」)</li> <li>●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。</li> <li>●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。</li> <li>●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。 関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。</li> </ul>
--

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 6月27日

### 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定第4673300044号		
法人名	医療法人 誠心会		
事業所名	グループホーム あったかハウス日吉		
所在地	鹿児島県日置市日吉町吉利796番地 (電話) 099-246-8111		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年6月25日	評価確定日	平成20年7月9日

【情報提供票より】 (平成20年6月1日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 2 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤10人, 非常勤 2人, 常勤換算	10.8人

#### (2) 建物概要

建物構造	重量鉄骨	造り
	1階建ての	～ 1階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,500 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 30000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 800 円			

#### (4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1		要介護2	5		
要介護3	6	要介護4	6		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 83歳	最低	71歳	最高	95歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ゆのもと記念病院(歯科含む)・前原やすレクリニック・日置市立病院
---------	----------------------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の要望で開設されたグループホームということから、地域住民との交流が充実し、入居者は落ち着いて生活している。母体法人のバックアップが充実しており、利用者・家族ともに安心している。職員は、認知症のケアについて研鑽し、チームワークを図りながらケアに従事している。職員は、謙虚な気持ちで入居者と接し、入居者は、家庭的な雰囲気の中でゆっくり、ゆったり過ごしている。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での要改善点はなし。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者、管理者・職員が評価の意義やねらいを活かすために、前向きに評価に取り組んでいる。
重点項目③	会議には、家族・地域住民代表・市担当者などが参加し、要望や意見を引き出し、運営に活かす取り組みをしている。運営推進会議により、地域住民との交流が充実しており、ケアにも効果が見られ、理念の「ゆっくり、ゆったり、けれどもしっかりと」にそった支援ができています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目④	家族会やアンケートを年2回実施して、利用者家族とのコミュニケーションが取れている。要望や意見を聞く機会を設けている。受け止めた意見をサービスの質向上に活かす取り組みをしている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	毎日の散歩での挨拶をはじめ、地域の運動会や祭りに参加し、ホームでの毎月の茶話会、季節の行事での地域住民との交流により、避難訓練やボランティア等地域との連携が取れている。

## 2. 評価結果（詳細）

主任調査員 石松 成子 / 調査員 浜田 千里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今までの理念を見直し、平成19年度に話し合い「あつたか地域で、あつたか交流、みんなであつたか、あつたかの輪」という言葉を今までの理念に加え、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支える理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りやミーティング時に理念を唱和し、理念を意識して毎日のケアを行っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会や祭りに参加したり、毎月の茶話会やクリスマス・夏祭りなど季節行事に、小・中学生や地域住民を招待し、地元の人々と交流することに努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を運営者・管理者・職員が理解し、全員で評価に取り組み、サービスの質向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表・地域住民代表・市担当者など多くの参加を得て、ホームの状況報告や話し合いを行い、質問や意見をサービス向上に活かしている。避難訓練への地域の協力等会議が活かされている。		

6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者には、積極的に情報提供や相談をしており、連携が図られている。協力してサービスの質向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、電話での状況報告や利用者の写真等を添え、手紙で様子など報告している。金銭管理は、面会時に確認してもらっている。面会時や「あつたか便り」で職員紹介をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	説明文書に相談・苦情窓口を明記している。家族会の開催や、アンケートを年2回実施し、利用者家族からの要望や意見を聞く機会を設け運営に反映させるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の異動による影響を少なくするため、ユニットの職員を固定化して、馴染みの職員の支援を受けられるよう配慮している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内では計画的に研修を行っている。外部の研修にも多くの職員が受講できる機会を確保し、研修報告書を作成し、他の職員とも共有している。		


11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に加入しており、研修等に参加し交流を図っている。法人のグループホームとの交流も積極的に行い、お互いに相談するなどサービスの質向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があれば、見学を勧めたり、老健施設などに出向いて本人と面談をしながら、馴染みの関係をつくっている。家族からの情報収集や、会話を心がけ、ホームでの生活に徐々に始めるように工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として尊敬する気持ちで、生活の知恵や昔の話を教えてもらっており、感謝の気持ちで支えあっている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は良いケアをするためには利用者を知ることであると認識し、毎日の会話を大切にしている。家族からの情報を職員で話し合い、思いや意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の思いや意向、アセスメントや主治医の意見等参考に、全職員でカンファレンスを行い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。		

16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に沿って、毎日実施状況を記録し、毎月評価している。介護計画の期間に応じて見直しを行い、状況変化や家族の希望等があれば、随時介護計画の見直しをしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	系列の訪問看護ステーションや、協力医療機関との連携で、医療連携体制をとっており、利用者・家族も安心している。通院介助や墓参り・自宅訪問など外出の支援を実施している。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望で、納得するかかりつけ医の受診を支援している。往診や、夜間の連絡体制もあり、医療機関との協力関係が築かれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応について、方針を決め文書化して、利用者・家族に説明している。状態変化があった場合、対応については利用者・家族の意向に沿って、主治医や関係者と話し合うことにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念の「ゆっくり、ゆったり、けれどもしっかり」を心がけ、さりげない言葉かけや対応をしている。法人で「日本一優しい心の10か条」を決めてケアを実践するなど、プライバシーを大切にしている。		

グループホームあったかハウス 日吉

21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なスケジュールは決めているが、起床や食事時間など柔軟に対応し、利用者のペースで生活している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたい物を聞き、個々の嗜好を考慮した献立を作成している。毎日の買い物・調理、片付けなど利用者とともにいき、嚥下体操の後、職員も一緒に楽しく食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応入浴時間を決めてはいるが希望にそっていつでも入浴でき、シャワー浴・足浴も柔軟に支援している。入浴支援でのコミュニケーションも大切にしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字・ちぎり絵・大正琴・ピアノなど好きなことをして日々を過ごせるよう支援している。季節の保存食を作ったり、調理や園芸クラブ・手芸クラブなど役割を持ち、力を発揮できるような支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩や買い物などの支援をしている。気分転換にドライブや季節の花見、希望があれば墓参り、自宅訪問など支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員が鍵をかけることの弊害が起こらないように、利用者の思いを聞き、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支える努力をしている。茶話会などを通して地域住民との協力関係も築いている。鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回地域住民の協力をもらい、避難訓練を実施している。毎月の地域住民との交流や運営推進会議により協力体制が構築できている。災害に備え食料品と飲料水の備蓄もおこなっている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を毎日記録し、刻み食など利用者に応じた支援をしている。状況によっては、管理栄養士に相談し、アドバイスを受けている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールを中心に居室、台所があり、ゆったり過ごせるソファや畳コーナー、展示物や生け花など生活感や季節感を取り入れ、家庭的な雰囲気、居心地よく過ごせる工夫がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や写真・テレビなどのほか、使い慣れた大正琴や自分の作品を飾っている方、畳の居室に布団を利用している方、それぞれ自分らしい居室を工夫して居心地よく暮らしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。